

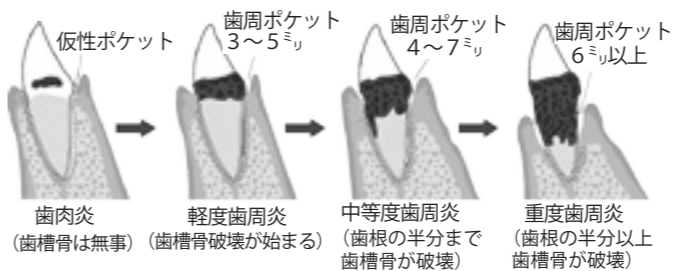
歯周病予防は全身の健康の入り口

歯周病（歯槽膿漏）は、歯と歯ぐきの隙間（歯周ポケット）にたまった歯垢・プラーク（細菌の塊）が原因で起こる感染症で、歯肉が炎症を起こしたり、歯を支えている骨（歯槽骨）がだんだんと溶けてなくなる病気です。

病気の進行には個人差があり、また初期の歯周病ではほとんど自覚症状がなく、かなり進行してから症状が出てくる厄介な病気です。

歯周病の進行

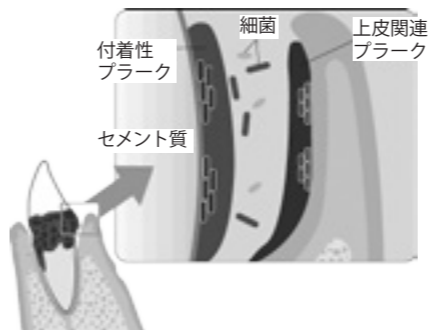
歯周病の進行の程度は歯肉炎、軽度歯周炎、中等度歯周炎、重度歯周炎に分けられます（図1）。進行の程度によって「歯磨きの時に歯肉から出血する」「虫歯はないのに冷



歯周病の進行（図1）

たいものがしみる（知覚過敏症）」といった軽い症状から「歯がぐらぐらしてくる」「歯肉が腫れて膿が出る」といった重い症状に変わってきた。一度溶けてしまった歯槽

骨は、一部の場合を除き、元の状態に戻ることはありません。したがって歯周病が進行すると、やがて歯が抜けてしまいきます。

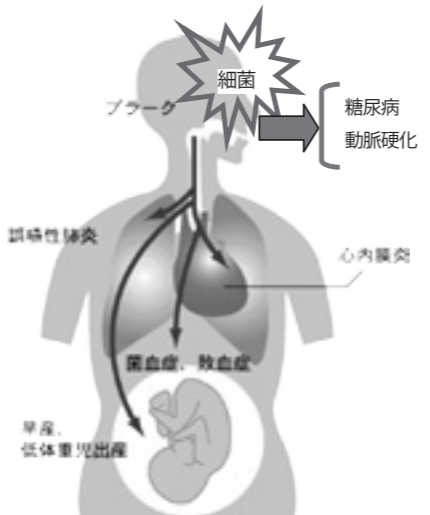


歯周ポケットにたまったプラーク（図2）

また、中等度以上の歯周病では歯周ポケットが深くくなり、歯ブラシではプラークを完全に取り除くことができないため、定期的な専門家によるプラーク除去が必要になってきます（図2）。

歯周病と他の病気の関連性

最近の研究では、歯周病で歯ぐきに炎症が起こると歯周



歯周病と全身疾患（図3）

病菌や炎症性物質が血管から全身へまわり、心臓病や動脈硬化に関係したり糖尿病へ悪影響を起こすことが分かっています。さらに早産や低体重児出産にも関連するといわれています（図3）。また寝たきりの人は、歯周病菌が肺炎を起こし重篤な状態になることもあります。

逆に歯周病を治療することが糖尿病の改善や、他の病気の予防につながるということが分かっています。

歯周病は単に口の中だけの病気ではなく、全身の健康と関係した病気であり、糖尿病や高血圧など同じ生活習慣病とされています。健康のために日頃の生活習慣に注意し、早期予防を心掛けましょう。

瀬戸内発見伝

巻之百八

瀬戸内市の重要文化財に新たに指定 妙興寺 金剛力士立像

市は、妙興寺（長船町福岡）の「仁王さん」として親しまれている「金剛力士立像」2軀を、重要文化財（彫刻）に指定しました。

像は、杉材を用いた木彫で、奇木造りという技法でつくられています。高さ235センチの阿形像と、高さ226センチの吽形像が2軀で一对となっています。

全面的な修復と記録の発見

虫食いによる傷み、接合面の離れなど、永年の間にかなり傷んでいましたが、平成23年8月から平成24年4月にかけて、全面的な修復が行われました。修復作



金剛力士立像（吽形）



金剛力士立像（阿形）

業は、境内の仮設作業場で行われ、作業の様子も公開されました。

修復は、多くの文化財修復を手掛けてきた京都市在住の久安勝士氏によって行われました。

修復の過程で、頭部の内側から、制作時の記録が発見されました。これにより、像の造立年代は寛永3（1626）年、制作者は運慶・快慶の流れをくむ「清水源兵衛入道名宗立」という仏師であることが分かりました。

宗立は、前年の寛永2（1625）年まで、餘慶寺（巨久町北島）の本尊である千手観音像の修理を手掛けていたことが分かっています。

寺と地域を見守る仁王さん

金剛力士立像は、「仁王さん」の名で親しまれています。寺の境内に入る仁王門に安置され、左右から参拝者を見送ります。像から風（気）を送るので、風が吹いていること

を表現する衣の形になっています。

阿形と吽形は、陰陽をあらわしていると言われ、阿は口を開いて発する最初の声、吽は口を閉じて発する最後の声だと言われています。

妙興寺では、江戸時代の中ごろ、享保年間に火災がありました。金剛力士立像の背中には、火災に遭ったことを裏付ける焦げた跡も見つかりました。

金剛力士立像は、約400年前から、妙興寺に起こった出来事や、福岡地区で暮らす人々を見守ってきたのでしょう。

妙興寺は、応永10（1403）年の創建と伝えられ、墓所には黒田官兵衛の曾祖父にあたる、黒田高政の墓と伝えられるもの、宇喜多直家の父、宇喜多興家の墓と伝えられるものがあります。

【参考文献】
久安勝士編『妙興寺仁王像修復報告書』